

これからのロータリー

コーディネーター：2001年RI 規定審議会代表議員

七戸 幸夫（旭川北）

フォーラム参加者：地区史編纂委員

| | |
|------------|-----------|
| 吉田 迪磨（稚内） | 百瀬 達夫（士別） |
| 扇谷 威司（旭川） | 伊藤 正通（北見） |
| 平野 克昌（紋別港） | 井上 一男（帯広） |
| 川口 雄（釧路） | 滝 昌之（弟子屈） |

七戸：21世紀に入った最初の年にあたり、過去を顧み現状を直視すると共に、特にロータリーの将来について率直な御意見を交換できればと思い、このフォーラムを進めたいと思います。

そこで、4つの設問をいたし、まずそれぞれ複数のチェックをお願いします。

その後、お気付の点を自由にお述べ下さい。

1. 晩年のポールハリスが、ロータリーの足跡をふり返って「創立の当初は、このように発展するとは思ってもいなかった」と述懐しています。あなたはこれからのロータリーは、どのようになると思いますか？

- ①会員増強とクラブ拡大が進む。 (4)
- ②ロータリーの綱領が変わる。 (4)
- ③わからない。 (1)

伊藤：日本のロータリー発達史から考えてみ

ると、ロータリーは一部の特権階級のエリート集団との認識が強くあります。これが右肩上がりの経済成長により、このエリート集団に比較的誰でも入会できるようになったことにより、日本は飛躍的に会員が増加したのだと思います。しかしその根底には自分もエリート集団の一員になれたのだという自己満足している会員が多く生れたのだと考えられます。また、日本人は精神論に走る傾向の強い民族で、やれ、宗教だ哲学だとロータリーの精神的バックボーンをあまりにもわい曲強調しすぎてきたのではないのでしょうか？

これからは、もっと柔軟な思考で21世紀にふさわしいロータリーに変革していくことが進むべき道だと思います。この柔軟性がなければ増強も拡大もありえません。

井上：全国的には本州各地とも会員増強、或いはクラブ拡大も活発に実施されているようですが、北海道の2地区中特に2500

地区は近年まであまり進展はなく、各クラブとも会員増強、出席率アップに苦勞しているのが現状のように思います。ロータリーも近年時代の変化と共に各規則、慣習について大幅修正が加えられ、古い会員は目を見張るばかりで、この先のロータリーの変革については未知数であると思います。またロータリーの綱領は不変であると思います。

平野：このままのRIの方向では、ロータリー運動は衰退し真のロータリアンは、ロータリークラブを去り、RIはじめ、虚構の論理と虚栄の奉仕が、ロータリーだと考える人々やクラブが残り、人類の文化史上輝ける足跡を残したのにも拘らず人々から忘れ去られるであろう。

百瀬：21世紀には近代化・経済の発展をみるのは東洋及南の地方が主となると思われる、今まで主体であった米欧を主とする北は環境に留意する考えからも産業経済の限度が来るとされる。これに伴いロータリーも拡大は一定の制限を迎えると思われる。拡大するとすれば南に担当する地方であろう。政治、宗教を越えた民族・国家の提携は困難で、ロータリーの思考方法は最小限受け入れられる条件である。但、日本国内では拡大の停止が予想されると思う。

七戸：ここで第2の設問に入りたいと思います。

2. 「将来は今までと同じではない。革新的方向に、ロータリーの将来がある」とか、「ロータリーは変革しないと停滞する」との意見が強いこのごろです。あなたはロータリーの変革について、どうお考えでしょうか？

①ロータリーは変革しないと停滞する。(4)

②ロータリーは変えて良いものと、変えてならぬものがあることを銘記すべきだ。(7)

③「2005年までに150万人のロータリアン」ということを目標にすることに賛成である。(3)

④「2005年までに150万人のロータリアン」という目標には反対する。漸増して行くべきである。(5)

吉田：ロータリアン一人一人の(職業奉仕)意識の変革が目標・会員増強を増す余り本来の職業奉仕そのものの願いが歪められる心配はないでしょうか？

川口：20世紀は物の時代、21世紀は心の時代と言われるが、ロータリーも全くその通りだと思う。

会員増強も必要かも知れないが、ロータリーの心の問題こそ最も必要な時代ではないだろうか。

百瀬：ロータリーにしても何れの活動も時代と共に変化することは避けられないし、之を保持すれば停滞すると思われる。本来ロータリーには「他を思いやる精神」を本としているので、根本精神が変らなければ、時代により変ってよい所は多い。

増加目標150万人というRIの目標は目標としては賛成するが、各クラブには夫々の事情があり可能、不可能は地域の事情による。強制すべきではない。

平野：ロータリー運動の本質は、「量」では無く、「質」。しかも、「上質」なものを求めるところにある。ロータリアンの数が増加するのによし、また、それに伴う「質」の確保が出来なければ減少するのも、またやむを得ないのではないか？

井上：ロータリーは変化する時代に遅れず、それに適応する変革は必要なことではあります。その必要性を求めるあまり、ロータリー本来の姿が見失われる恐れ

あることは憂慮すべきことと言われます。

②のロータリーは変えてよいものと変えてならぬものがあることは当然銘記しなければならないと思います。

会員増強はもっとも必要なことではあります。あまり急激な会員増強は、質と量の観点から慎重を要する問題だと思います。

伊藤：21世紀の変革の波は確実に世界中で巻き起っていますし、これからは予想もつかない事態が必ず発生すると思われま

す。旧態依然のロータリーの運営では停滞のみならず潰滅の危機におちいることは間違いないと思います。

七戸：ここで第3の設問に入ります。これも今年の規定審議会で採択されました。日本からは3クラブの参加で、当地区では具体化されていません。

3. ロータリークラブのための新モデルに関する試験的プロジェクトの実施計画が進められています。

2001年の規定審議会で「ロータリークラブを創設するに当たり、新しいモデルに基いた試験的プロジェクトの実施計画の実施を考慮する件(01-186)」が採択されました。日本からは3クラブが参加することとなりましたが、この動きについて、どのようにお考えでしょうか？

①実施予定期日のおり、2004年4月の規定審議会で「ロータリークラブのための代替モデルを提供するための立法案」が採択されると思う。(3)

②世界で選出参加するクラブの総数は200とされているが、日本からの参加クラブの少ないのは問題である。(2)

③具体的内容が良く判らないので、何ともいえない。(3)

④今回、01-186が採択されたが、各ロータリークラブは慎重に対応すべきだと思う。(4)

伊藤：このような新しいモデルはどんどん進めて行くべきだと思います。これが成功すれば日本の各クラブも定款細則を見直して変革して行こうとする意欲が必要であります。

平野：ロータリー運動に、ロータリークラブでないものをつくるのは、論外であって、RIみずからロータリー運動を死滅させる行為であって、あらゆる手段を使って阻止しなければならない。

百瀬：日本のロータリークラブの発展の歴史からみて戦前と戦後とは異っている。ある程度以上豊かな経済人によって構成された戦前のクラブも、戦後の昭和30年後半からの急成長とともに急に拡大、増加した。昔のブルジョア的な資質より中小企業人が加わり平民化、民主化したと思われる。古いロータリーの精神は次第に変質しているのが日本のロータリーである。参加が多い日本のクラブの割には日本の考え方は国際ロータリーに反映されないのが外交の不得意な日本の資質である。西欧を主としたロータリー哲学は変化してゆくのが当然と思われる。将来はモデルの様な変質をするものと思われる。

吉田：(一般RCについての関連した意見)

1 ロータリークラブのロータリアンの数は60名位が、適当ではないでしょうか。その中で、互にロータリーの職業奉仕の精神を研鑽すること。

予算も収入15,000,000位として支払も負担金、運営費、事業費とそれに見合う経費支出としては如何なものでしょうか？

七戸：いままでの問題と同様ですが、多少視

点を変えて、第4の設問に入らせて頂きます。

4. 新世紀に当り、新しい時代の波を感じております。一面、ロータリーを信奉し、愛してきた一部のロータリアンは、急激な変革を好まない人も少なくありません。

ロータリアンを増すため、従来より多様な年齢構成や、入会しやすい様な会員資格など変化も予想されます。したがって、ロータリークラブが、それぞれ多様化されるかもしれません。この点いかがお考えでしょうか？

- ①柔軟に対応する。 (3)
- ②無制限な会員の増大は反対する。(4)
- ③ロータリーの前途を憂える。 (2)

吉田：ロータリーの原点に立ち帰ると云うことは人間として生れた意義と生きる喜びを職業を通して、人と人とのふれ合い、出会により共生の最高の友情を分かち合う(特定の人に対してではなく、すべての人に)こと、そのことが奉仕の原点ではないでしょうか、共生・共に生き、共に育ち合う自己研鑽グループ、これがロータリーの真の姿でしょう。

百瀬：私はもう古い型のロータリアンに属します。個人的には保守、ポールハリスの考えたロータリーに賛成です。21世紀には環境、エネルギー、人工増加等の激しい時代になります。無限に発展を予想できた20世紀の時代とは異なる。時代精神が求められて当然で、徒に保守に止ることは不可能です。新しい時代には新しい人達がロータリーの本質を失わないかぎり新しいルールをもって進めてゆくべきです。

平野：前途を憂えるというより、このままでは殆んど絶望的だと考える。

新世紀というけれど、人間の営みは、一日一日変ることではない。それは、あたかも、大河の流れや、瀑布のごときである。その一齣に生きる私達のロータリー運動は日々の改善を本質としており、イベントを重要視するものでは本来ないのである。

地味ではあるかもしれないが、着実に一步一步例会やロータリアン同志の出会により、切磋琢磨、自己研鑽により、より良質な心をつくって行く、その心を持ったロータリアンの日々の行動こそが奉仕の実践なのである。

井上：この件については上記の①②③とも必要なことですが、最近のロータリアンを見ますとロータリーの諸行事(地区大会、各記念式典)等の参加についても昔に比較して非常に少なくなりました。特に夫人の参加も少なくなり、憂慮すべきことと思われまます。

ロタキチ、ロータリー馬鹿と言われる会員も希少価値となりましたが、諸行事に対し、もう少し熱心さが求められるものと思います。

伊藤：③の前途を憂える会員の気持はよく分かりますが、ロータリーの基本的な精神さえあれば、相当に柔軟な対応が可能であると思われまます。

しかも、この考えなくしてはロータリーの発展はありえまません。

滝：アンケートに一応チェックしましたが個々の意見より関連もあり思いついたまま記述します。

先日の座談会でも申し上げましたが今から40年程前にロータリーに入会し厳しさと楽しさを経験しました。当時30才を超えた青二才の私がロータリーという未知の世界に緊張と不安を抱きながら先輩の良き指導の下にあらゆる会合に出席し自己研鑽に努めました。厳しき即ちルール

に基づいた行動が求められ、その反面懇談の場では触れ合いを求めて友情が芽生え素晴らしい人間関係が育成され楽しかった事は数え切れまません。最近ロータリーに対する意欲・魅力が失われつつあるのは私が老齢化したのも原因ですがそればかりでしょうか？

最近のRIの進路が「国際奉仕」中心主義で寄附その他財政上の呼びかけが拡大されて来まました。

ポールハリスがロータリークラブを創立したその主眼は？その原点は？ロータリー独自の「職業奉仕」「社会奉仕」の活動方針が明確ではありません。

この100年にロータリーは大きく成長し増強されたがその方向性については必ずしも健全に求める目標に向っているとは思えまません。

座談会でもお話しした通り「不易」いつの時代でも変らぬもの、守らなければならぬもの「改革」社会状況に応じて変えるもの変えねばならぬものを、RIは明確にすべきで、その上で進路を決めるべきです。

改革にしても、激変はさけその意図、理由を会員に情報として正しく認識させ理解させねばなりません。

会員増150万人達成も、その理由が不明確でありこのままでは2005年達成は困難であろうと推測されまます。

01-186が採択され2004年4月の審議会が注目されますが「ロータリーよお前はどこへ行くのか？」詳しい内容は不明ですが、今後のロータリーの前途に複雑な思いを寄せるのは私一人ではないでしょう。モデルクラブより現状のクラブどこに欠点があるのか是正すべきか討議する方が納得すると思われまます。

以上思いついたまま書きました。

七戸：これからの問題として、規定審議に関

する研究と啓蒙を行う常設委員会を設置してという意見が平野委員から提唱されました。

平野：今回の規定審議会のような結果をもたらしたのは、結局は、一人一人のロータリアンのロータリーに対する勉強の不足、また、ロータリーに対する情熱の欠如に依るものだと思う。

一人一人のロータリアンが、ロータリー哲学を更に更に探求し、また、地区においても、「規定審議」に関する研究委員会を常設し、研究と、地区ロータリアンに対する啓蒙を計るべきだと思う。

そして、RIに対し、日本ロータリーは、こう考えるというようなことではなく、本来ロータリーには地域社会という概念はあっても、国という概念は無いのだから、一人一人のロータリアンがこのインターネット時代、そのロータリーに対する思いを世界中のロータリアンに発信し、ロータリーを本来のロータリーの姿に導いていきたいものである。

七戸：今年の規定審議会は、新世紀を迎え、ロータリーとして、変革の時代を文字通り示唆する記念すべき会合でした。それだけに、私共代表議員としては、それぞれ全力を尽して対処いたしました。その為体力を消耗し、まだ低下したままの状態のものもあります。

一方、議長・副議長の両者は、常にユーモアを忘れず、会議をリードされ、見事に600以上の案件を整理されました。

私どもは、地区としても、平野委員の言われるように真剣に、重大な規定審議をする態度が肝要と思われまます。その必要性を痛感いたしますと共に、ロータリーを左右する様な重要事項の討議に当たっても、常にユーモアの精神を忘れず、議論を進めたいと思うものです。

七戸：フォーラムを終えようとするに当り、

私は幾つかの点を強調いたしたいと思います。これは結論とかまとめというものではなく、一つの問題提起と御理解頂ければ幸いです。

まず、第1にニューモデルプランについては、これから3年間の試行期間の後、2004年の「RI 規定審議会」において採択されますと、2005年から実施されることとなります。

そうなりますと、従来のクラブ定款・細則の外に、ニューモデルのRCの定款・細則ができ、多様化された中から自分たちのRCの定款・細則を定めることとなります。従って私は次の2004年の審議会における採否の行方を特に重視するものです。ここで自分たちのRCの今後を決定左右することとなるのですから、皆様と共に注目いたし大いに意見を述べあいましょう。

第2点は「2005年、ロータリーの百年祭までに150万人のロータリアンと言う会員目標を承認する件」決議案01-658、が採択されています。

各クラブや地区レベルで、この様な重要事項がどれだけ討議されたでしょうか？これからでも遅くありません。

例えば「11歳から14歳までのユース・アクト・クラブの設立を奨励するように」、さらに「青少年奉仕をロータリーの第5の奉仕に追加することを考慮するように」いずれも「理事会に要請」が決議されました。特にローターアクターをロータリアンの予備軍として大いに期待し、さらにロータリアンの配偶者の入会の便を図るなど、あらゆる方策を駆使して、増強につとめようとする大方針なのです。

ここで注意すべきことは、余り急速に無理をし過ぎると、逆にロータリーの衰退から破滅を招くおそれが出てくること

が懸念されます。

このことに注意しながら、会員数の漸増につとめましょう。その結果として150万人に達することができれば、誰しも心から喜び合うことができます。

第3に、今年のRI 規定審議会に出て、単に21世紀に入ったということだけでなく、確かに大きな変革期のうねりを実感したことは事実です。

その衝撃は大きなものがありました。これからどの様にロータリーが変わるかという予測は、数年後の見当すらつきません。

そこで、いつも思う事ですが、私たちロータリアン1人1人が常に「ロータリーの変えて良いものと、変えてならぬもの」との判断だけは、しっかりとをもって置きたいものです。そうすれば、あらゆる変革の時代でも自分を見失うことなく対処できると思います。

いかがでしょうか？

このフォーラムでは、いまロータリーが直面している幾つかの根本問題について、いろいろ考えて頂きました。

たった4つの設問を展開いたしました。皆様の御参考になれば幸いです。問題はまだまだ数多くありますから、それぞれ皆様のRCでも一つづつでも採り上げ、討議して頂ければと思います。こうしてロータリーの重要な問題について考を進め、議論や研究を高めたいものです。

'90～'91年、パウロ V.C. コスタ会長は「ロータリーを高めよ 思いを尽し 熱意を尽し」と訴えられました。私たちは今こそロータリーを高めるため全力を尽そうではありませんか。